

大槻重之著

インドネシア専科

第1巻風土編

表紙絵について清原嘉彦

事務所のオフィスボーイにクスタマン君という気のいい男がいた。彼の故郷が西ジャワのバンドンから更に南東に2時間も走った風光明媚な古都ガルットにあった。休日が続くある時に是非、絵を描きに来てくれという事で社内の連中(インドネシア人)と一緒に二泊三日で訪れた。それはそれは素晴らしい温泉まである火山盆地のいい所であった。絵の取材で興奮して眠れなかった思い出がある。

はじめに

本冊子はインターネットにホームページとして掲載している「インドネシア専科」の冊子バージョンであります。

ホームページ「インドネシア専科」は全編 1000 項目からなっており、本冊子は最初の「A. 風土編」80 項目であります。以降「B. 地誌編」「C. 歴史編」「D. 政治編」「E. 経済編」「F. 社会編」「G. 生活編」「H. 文化編」と引き続いて全編刊行の意向であります。

ホームページのメリットはリンクを設けることで、他項目へクリックだけで移れること、写真や地図などを利用できることです。インドネシアに関する多数のホームページがありますが、リンクによって「インドネシア専科」の裾野が広がります。現在の私のホームページではリンクのメリットを活用できるよう取り込んだつもりです。

また、ホームページでは追加や修正が容易にできるため、新しい情報に接する都度、必要な修正を行える結果、最新の鮮度を保つことができます。

「インドネシア専科」のホームページを立ち上げて以降、時間さえあれば手入れを行うのを日課としてきました。しかしながらホームページの何時でも修正できることは欠点でもあります。何故ならとりあえずとばかりの吟味不十分の原稿をそのまま掲載し、結局そのまま放置しています。何時までも竣工させるつもりのない未完成品をいじ繰り返すことになりかねません。年々の加齢に目の衰えも自覚するこの頃では、いつまでも未完成のままにしておくより最終として一度けじめをつけたいと考えるようになりました。

インターネット社会のメリットは享受しているものの、何時まで追従できるか自信もありません。パソコンが突如として動かなくなった時に全てが失われるという不安、幸いこれまでは何とか復旧できましたが、パソコンへの不信感は抜きがたいものがあります。

ホームページと同内容を今回あえて冊子とした理由は書籍と活字の文化で育ったものとしては活字への憧憬があることも否定できません。冊子にしておけば然るべき図書館の蔵書に加えてもらえるだろうという期待もあります。

専門の出版会社の自費出版は経済的負担であるため、全て手作業で自分でやることにしました。注文分だけコピーして製本すればよいので販売に気を使わずにすみます。

今回、冊子作成にあたり、ホームページの「インドネシア専科」をコピーし踏襲するもので内容を変えるつもりはありませんが、最終版にするという意識で丁寧に見直した結果「風土編」においてもかなりの修文を行っています。外見はお粗末な冊子ですが、中身は十分に吟味したつもりです。

今回の修正分もフィードバックしてホームページは継続するつもりです。ホームページの容量が限界なのか修正作業のトラブルが頻発しますのでパソコンの機嫌をうかがいながら少しずつの作業になる見込みです。

繰り返しますとインターネットはリンクで他項目の参照や写真や地図に容易にアクセスできることは、活字文化にないインターネットの魅力であります。著者としては本冊子「インドネシア専科」とインターネットによるホームページの「インドネシア専科」を併用されることをお勧めします。¹

インドネシア専科HPアドレス

<http://www.jttk.zaq.ne.jp/bachw308/>

現在「インドネシア専科」のホームページには一日 100-200 件のアクセスがあり、検索ヒット数の増加から相当の評価を得ているものと自負しております。また時折いただくメールなどからインドネシアを専門的に勉強

¹<編者註>このページは著者が無くなる少し前の 2017 年頃閉鎖された。(2019)

インドネシア専科

されている人にも愛読されていることに意を強くしています。

インターネットを使わない人、あるいは使えない状況においては書籍というメディア形態はやはり必要であり、活字による書物の役割は依然として大きいと考えます。今回の「インドネシア専科」冊子の刊行を受け入れてもらえることを著者としては密かに期しています。

2007年6月

著者しるす

編者前書き

2018年に亡くなった大槻重之さんから、この「インドネシア専科」をもう一度インターネットに挙げてほしいと生前依頼されたのでここに編集して掲載するものである。

編集にあたって、巻末の注を脚注に異動し、必要に応じて「編者註」も追加したものである。

図と写真は編者が作成・撮影して本文に追加したものである。

2019年6月

編者 田口重久 <omdoyok@infoseek.jp>

【風土編目次】

A-1水の大地1		A-4海と海峡	
001. 祖国/タナアイル	9	029. 海のインドネシア	37
002. 熱帯雨林気候	10	030. 群島理論	37
003. モンスーン/雨季と乾季	11	031. インドネシア海	38
004. スコールの襲来	11	032. マラッカ海峡	39
005. 雨商売	12	033. 海峡の航行	41
006. マングローブ	13	034. マラッカ内海	41
007. スワンプの拡がり	14	035. シンガポール海峡	42
008. コーヒー色の河	15	036. ジャワ海	44
009. 冷気の山	16	037. スンダ海峡	44
010. 聖なる水	17	038. ロンボック海峡	45
		039. ウォーレシアの海	46
A-2東南アジアの大国		040. 南シナ海	47
011. 東南アジアとは	19	041. 太平洋/日本の対岸	48
012. アセアンの要	20	042. 珊瑚の海	49
013. 東南アジア島嶼部	20		
014. ヌサンタラ	21	A-5植物の風景	
015. 島嶼国家	22	043. ヤシのある風景	51
016. スンダ棚とサフル棚	23	044. ココヤシ/生命の樹	51
017. オセアニアの国として	24	045. ヤシいろいろ	52
018. 国土面積	25	046. 水田の風景	53
019. 外島とジャワ島	26	047. 熱帯果樹の香り	54
		048. 生活の中のバナナ	55
A-3火山列島		049. ドリアンの臭い	56
020. インドネシア火山帯	28	050. ブリンギン/聖樹	57
021. 火山大爆発	28	051. バンブーの用途	58
022. 火山の弊害	29	052. 百花繚乱	59
023. 火山の恵み	30	053. 三つの国花	60
024. 聖なる火山	31	054. 天恵の熱帯雨林	61
025. 火山の伝説	32	055. ジャングルの法則	62
026. 香料島の火山	33	056. 香料の樹	63
027. カルデラ湖	34	057. 香木・白檀	64
028. 地震と津波	35	058. 鉄木とチーク	65
028extra. スマトラ沖地震	36	059. 屋敷林	66

A-6動物との共生	
060. 牛との係わり合い	68
061. 水牛の角	68
062. バンテン牛/力の象徴	69
063. 小型のスンバ馬	70
064. 山羊と鹿	71
065. 忌避される犬	72
066. タブーの豚	73
067. 森の鬼神/虎	74
068. 野生象の居場所	75
069. 犀の災難	76
070. 猿いろいろ	77
071. オランウータン	78
072. 蝙蝠の町	79
073. 天からの使者	80
074. 鶏肉のご馳走	80
075. 小鳥の声	81
076. 極楽鳥	82
077. やもりの奇声	83
078. 間抜けの鰐	84
079. 蛍の木	85
080. ウォーレス線	86

《本文摘要》

①文中の(→xxx)は参照項目です。必要により参照してください。

②項目末の⇒000.インドネシアは他章に記載した重要関連項目です。併読されることをお勧めします。

上記①②の項目数字は「インドネシア専科」全編をとおしての 001 から 1000 までの一連の項目番号です。ちなみに全編 1000 項目であることが「専科」の所以であります。